

20/429004A

厚生労働科学研究費補助金  
健康安全・危機管理対策総合研究事業

健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した  
介入実証と評価に関する研究

平成26年度 総括研究報告書

研究代表者 福島 富士子

平成 27 (2015) 年 3月

厚生労働科学研究費補助金  
健康安全・危機管理対策総合研究事業

健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した  
介入実証と評価に関する研究

平成26年度 総括研究報告書

研究代表者 福島 富士子

平成 27 (2015) 年 3 月

## 目 次

I. 総括研究報告		
健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した 介入実証と評価に関する研究	-----	1
福島 富士子		
■参考資料 【手引書】産前・産後を支えるソーシャル・キャピタル ～個から家族そして地域へ	-----	10
II. 分担研究報告		
1. ソーシャル・キャピタルと合計特殊出生率の関連に関する分析	-----	25
尾島 俊之		
2. 産婦を対象とした出産後のケアに関する調査	-----	40
福永 一郎		
3. ホテルを活用した産後デイケア事業の取り組み	-----	57
市川 香織		
4. 浦安市におけるソーシャル・キャピタルの醸成 (産後ケア事業を担う助産師の育成)	-----	60
福島 富士子・並木 美砂子		
5. 住民主体のソーシャル・キャピタル醸成に向けて	-----	66
待鳥 美光		
6. 世田谷区における住民参加の計画づくりに関する経緯	-----	69
松田 妙子		

平成 26 年度研究協力者一覧

研究者名	所属
<b>【主任研究者】</b> 福島 富士子	東邦大学 看護学部
<b>【分担研究者】</b> 尾島 俊之 信友 浩一 平野 かよ子 川島(児玉)知子 齋藤 益子 待鳥 美光	浜松医科大学 健康社会医学講座 信友ムラ事務所 長崎県立大学 あんずクリニック 帝京科学大学 NPO 法人こども・みらい・わこう
<b>【研究協力者】</b> 福永 一郎 堀岡 伸彦 東内 京一 上田 紀子 並木 美沙子 三井 ひろみ 石川 貴美子 市川 香織 棒田 明子 松田 妙子 松永 佳子 松峯 寿美 望月 弘子 新藤 京子 宗 祥子 大澤 絵里 濱脇 文子 林 友紗 伊東 優子 水澤 幸枝 田嶋 幸代 渡沼 霧子	高知県 健康政策部健康対策課 山梨県 福祉保健部健康増進課 和光市 保健福祉部 名張市 健康福祉課健康支援室 浦安市 健康福祉部健康増進課 北杜市 市民部健康増進課 秦野市 福祉部高齢介護課 文教大学 看護学部 NPO 法人 孫育て・ニッポン せたがや子育てネット 東邦大学 看護学部 東峯サライ 医療法人笹本会 山梨県立大学 人間福祉学部 松が丘助産院 国立保健医療科学院 国際協力研究部 東峯サライ 東邦大学医学部博士課程 わこう助産院 わこう産前・産後ケアセンター フリーライター 東邦大学

厚生労働科学研究補助金（政策科学推進研究事業）

「健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した介入実証と評価に関する研究」

研究協力報告書（平成 26 年度）

## 『健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した 介入実証と評価に関する研究』

研究代表	福島富士子	（東邦大学 看護学部）
研究分担者	尾島 俊之	（浜松医科大学）
	信友 浩一	（信友ムラ事務所）
	平野 かよ子	（長崎県立大学）
	川島(児玉)知子	（あんずクリニック）
	齋藤 益子	（帝京科学大学）
	待鳥 美光	（わこう住民代表）

### 研究要旨

健康なまちづくりの実現に向け、地域母子保健の課題である切れ目ない妊娠出産に着目し、地域での産み育てに関わるモデル事業のソーシャル・キャピタル（SC）形成手法を活用したしくみづくりの介入実証を行なった。

1年目は『1) 先行モデル事業の評価・分析』と『2) 自治体が計画する産前産後ケア拠点施設計画への介入実証』を行った。評価・分析からは、SC形成の展開の前進後退を繰り返す5つのステップが明らかとなった。それを基とする手引書草案を活用して、介入実証を行うことで、産前産後ケアセンターのSC形成に果たす役割 - ①安心して子育てできる支援ネットワークの構築、②地域のSCの醸成、の2つが明らかとなった。しかし、手引書に示す通り意見の対立等でそのステップが前進後退を繰り返すこともあり、この展開が容易でないことも示された。2年目は1年目の結果を踏まえ、「子産み子育てから始まるSC醸成の手引き」の完成と、この手引きをテキストに、自治体職員と事業にかかわる住民を対象とした研修プログラムの開発を行なった。

今後は、作成した手引書を元にモデル事業の展開自治体において、介入して検証を重ね、更に使いやすい手引書を作成していくとともに、全国に、SC醸成を視野に入れた「切れ目ない妊娠出産、・母子保健政策、子育て世代包括支援事業」を広げていくことである。

### A. 研究目的

地域特性から類型化・標準化に向けた評

価を行い、SC形成を活用した産前産後ケア拠点施設づくりの展開のプロセスの評価と、拠点施設がSC形成に果たす役割を明らかにする。さらに各地域の特色を考慮

した SC 形成のための手引書の作成と人材育成のためのプログラムの開発を行う。

## B. 研究方法

1 年目（平成 25 年度）：『1) 先行モデル事業の評価・分析』と『2) 自治体が計画する産前産後ケア拠点施設計画への介入実証』を行った。具体的に、①母子の包括モデル事業を計画する、和光市、高知県、山梨県等で SC 形成を視野に入れた事業展開に関する研修の実施や自治体職員との議論から得た結果をもとに、手引書草案を作成した②この草案を元に 5 箇所にて介入実証を行った 5 箇所において検討会を行い草案の評価・フィードバックを行った③海外における事例のヒアリングまた政策についての情報収集をもとに、上記草案に関する再度検討、精査を行った。

2 年目（平成 26 年度）：「子産み子育てから始まる SC 醸成の手引き」の完成と、この手引きをテキストに、自治体職員と事業にかかわる住民を対象とした研修プログラムの開発を行なった。完成された手引書は、国のモデル事業に手あげしている自治体、約 40 自治体を中心に配布、さらに都道府県に送付予定である。

## C. 研究結果

モデルフィールド（和光市、高知県、山梨県）において、手引書草案のために明らかになった SC 形成を活用した産前産後ケア拠点施設づくりの展開のプロセスは以下の 5 ステップであった。

①地域課題の共有、目的の共有、

②役割の認識

③協働事業の展開、

④困難な状況の遭遇と省察、

⑤持続的発展

そして、この 5 つのステップは決して一方方向に段階的に動くのではなく、螺旋を描くように前進後退を繰り返すことが明らかになった。

これらの草案を基に次の 5 箇所（浦安市、北杜市、名張市、枚方市、秦野市）、のフィールドで草案の評価を行った結果、それぞれの地域特性に応じて、SC 形成を視野に入れた「産前産後ケアセンターづくり・母子保健政策」に取り組んでいる様子が見受けられた。そして、実施検討段階の自治体では、螺旋が同じステップ内で描かれるように、地域の中での意見の対立により、計画が滞っている状況も見られた。

二つ目に、合計 8 箇所の介入により明らかになった拠点施設（産前産後ケアセンター）の SC 形成に果たす役割は以下の 2 点であった。

①子どもをもつ両親の SC 形成の拠点場所  
②安心して子育てできる支援ネットワーク構築を通して、地域の SC の形成の場所

## D. 考察

本研究では、SC 形成を活用した産前産後ケア拠点施設づくりの展開の 5 ステップ、拠点施設の SC 形成に果たす役割を明らかにし、それを活用し地域の産前産後ケアセンターに焦点をあてた健康なまちづくりのための SC 形成のための手引書を作成した。

本研究で母子保健に着目した理由は、「愛着の形成は人間関係の基礎である母子関係を良好に築くことであり、それは子どものその後の人間関係形成、つまり SC 形成における「信頼」においてプラスの影響をもたらすことが予測できる」と SC 形成の基盤は母子関係の愛着に回帰すると考えたからである。

本研究において、拠点施設を地域に開き、母子と地域をつなげる場として、SC の醸成へとつながることが可能となることが実証された。しかし、同時にその過程は自治体により様々であり、意見の対立などで前進が容易ではないことも明らかとなった。また、各自治体が目標とする SC を活用した母子保健事業の展開の形にも様々な形があることがわかった。

今年度には、完成した手引書を自治体に配布するが、包括モデル事業が行われている中で、作成した手引書を全国の自治体に配布することは、SC を促進する効果がある。また、手引書に掲載予定の、新しい母子保健政策の形でもある、フィンランドのネウボラを元に、SC 醸成の概念を加えた、「日本型ネウボラ※」への発展的展開（和光市、名張市、浦安市はすでに実施中）を進めることが期待できる。

今後は、作成した手引書を元にモデル事業の展開自治体において、介入して検証を重ね、更に使いやすい手引書を作成していくとともに、全国に、SC 醸成を視野に入れた「切れ目のない妊娠出産・母子保健政策、子育て世代包括支援事業」を広げていくことである。

## E. 結論

本研究により明らかとなった SC 形成を活用した産前産後ケア拠点施設づくりの展開の 5 ステップ、拠点施設（産前産後ケアセンター）の SC 形成に果たす役割を基に、産前産後ケアセンターに焦点をあてた健康なまちづくりのための SC 形成のための手引書を作成した。

住民のニーズに加えて、自治体と住民が協働で、地域の社会資源を発掘・有効利用し、地方主権による独自の SC 形成を踏まえた母子保健政策を進めていく必要がある。

## F. 発表

- ・福島富士子他 安心して子どもを産み育てられるために 地方創生の推進に関する提言 全国町村会 2014.11
- ・福島富士子 看護研究から政策をうみだすために 看護研究 医学書院、2015.2
- ・福島富士子 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援について 月刊地域保健 1月号 2015.1
- ・今求められる「産後ケア」とは 目黒区「出会いキラリ」 2015.3
- ・川崎千恵・大澤絵里. オーストラリアにおける子育て支援政策の実際 保健師ジャーナル 70(11) 2014、984-989

## 学会発表

- ・福島富士子他 母子保健—特に産後から始まる SC の醸成、第 73 回日本公衆衛生学会総会、地域保健施策における SC を活用した戦略と戦術 2014.11

※ネウボラとはフィンランドで制度化されている妊娠・出産・子育てに関する支援施設のこと。妊娠、出産から就学前までの育児を切れ目なく継続的に支援するのが特長。ネウボラは、フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味。

健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法  
を活用した介入実証と評価に関する研究

研究代表者:所属機関 東邦大学 看護学部 看護学科  
家族・生殖看護学研究室  
氏名 福島富士子  
研究分担者:所属機関 長崎県立大学  
氏名 平野かよ子  
所属機関 浜松医科大学健康社会医学講座  
氏名 尾島俊之  
所属機関 (株)信友ムラ事務所  
氏名 信友浩一  
所属機関 あんずクリニック産婦人科  
氏名 川島(規玉)知子  
所属機関 帝京科学大学医療科学部看護学科  
氏名 齋藤益子  
所属機関 NPO法人こども・みらい・わこう 住民代表  
氏名 待鳥美光

研究背景

H15~H17 厚生労働科学研究政策科学推進事業

『少子化における妊娠・出産に関わる政策提言に関する研究』において

少子化の要因を探る方法として、  
多産地域における多産の要因とは？

人と人との親密なつながり

政策提言（H17年度報告）

1. 人と人との関わりのきっかけ作りとしての子育て支援施策
2. 関係性に基づく地域づくりの支援

H19~21

次世代育成支援政策における産後育児支援体制の調査に関する研究

- ☑モデル事業:産後育児支援体制の調査・評価
- ☑モデル事業:産後育児支援体制の調査・評価

H22~24

住民主体のソーシャル・キャピタル形成活動プロセスと支援体制に関する介入実証研究

- ☑産後ケア事業モデル事業化へ
- ☑モデル事業:産後ケア事業の調査・評価

H25~26

健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した介入実証と評価に関する研究

- ☑SC形成のための学習機制作成
- ☑モデル事業:SC形成のための学習機制作成
- ☑モデル事業:SC形成のための学習機制作成

母子保健政策の拠点がソーシャル・キャピタルの形成を担える可能性

▶ 1.愛着形成



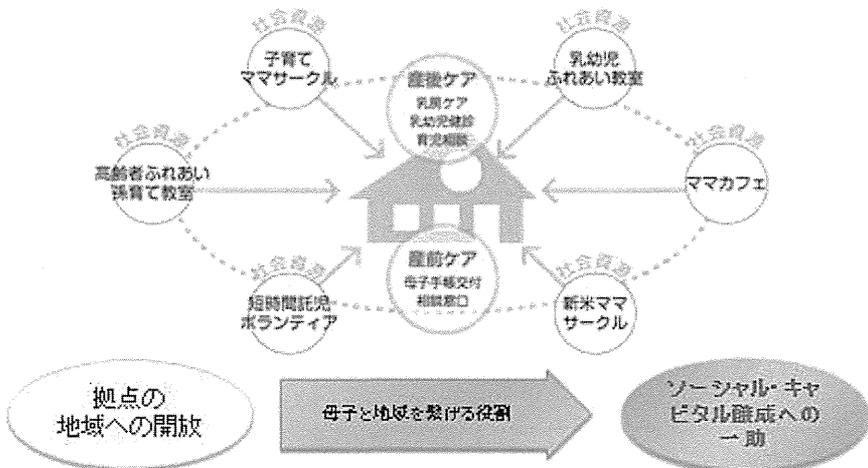
人間関係の始まりである母子の愛着形成を、産前から産後にかけて心身ともにサポートすることで、健全に育むことが出来ます。それによって、児の他者に対する安心感、安全感をもつことが出来、ソーシャル・キャピタル醸成の基盤である、「他者への信頼」を培えるきっかけとなると考えられます。

▶ 2.産前産後ケア



母子保健政策の拠点がソーシャル・キャピタルの形成を担える可能性

▶ 3.地域への架け橋



## 研究目的

産前産後ケアセンター  
(先行のモデル事業により開設)

SC形成を活用した産前産後ケア拠点施設づくりの展開のプロセスの評価

拠点施設がSC形成に果たす役割

先行モデル事業である、わこう産前産後ケアセンター設立のプロセス、理念、手法、経費や成果、ノウハウを参考とし、多数の自治体においてそれぞれの地域の特色を生かしたモデルプログラムが幅広く展開されること

モデルプログラムの評価のために低地域での展開プロセスの介入を行い、プログラムをより多くの自治体で検討し、深く考察し、低地域事例の蓄積をいかした手引書の作成

## 研究の方法

産み・育てるから始まるソーシャル・キャピタル形成とまちづくり

### 拠点モデル事業

①和光市、高知県、山梨県等でのSC形成を視野に入れた事業展開に関する研修の実施や自治体職員との議論

手引書草案を作成

②草案を元に、5箇所（浦安市、北杜市、名張市、枚方市、秦野市）において検討会を行い草案の評価・フィードバックを行った

25年度研究

チェックリストを精査し、手引書を作成、標準化を目指す

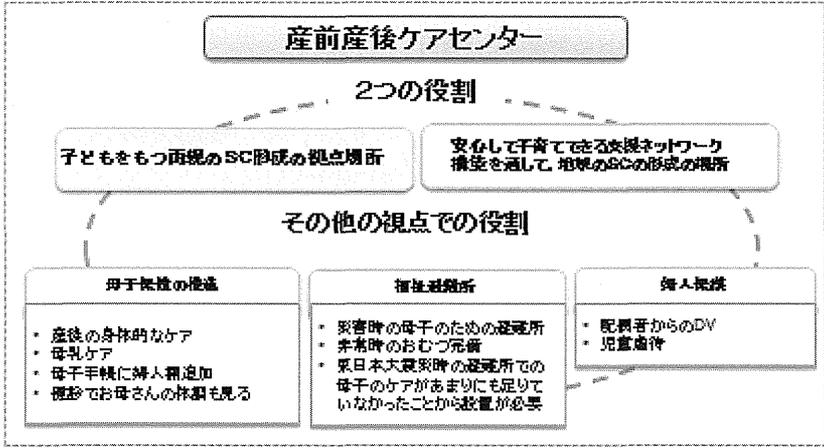
26年度研究

研究結果：SC形成を活用した産前産後ケア拠点施設づくりの展開のプロセス

	事例間共通したSC形成の段階	具体的な側面
I	地域の課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政が地域の要望を把握</li> <li>プロジェクト会議の設定</li> <li>住民へのアンケート実施</li> </ul>
	目的の共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議やアンケート結果に基づく意見交換</li> <li>住民へのチラシの配布</li> </ul>
II	役割の認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトチームの結成</li> <li>保健師がコーディネータ役を担当</li> <li>助産師によるケア力向上のための自主的取り組み</li> </ul>
III	協働事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>産後ケアセンターの開設</li> <li>母親主体の事業の実施</li> </ul>
IV	困難な状況との遭遇と省察	<p>&lt;困難な状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産後ケアセンターの運営危機(利用者が少ない、予算の確保)</li> <li>メンバー間の意識の相違の表面化</li> </ul>
		<p>&lt;省察と変容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー相互の意識の相違の受容</li> <li>専門家(助産師等)の地域への見方についての変化</li> </ul>
V	持続的発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者全員が事業の目に見える成果ややりがいの認識</li> <li>大学・地域NPOとの連携体制の構築</li> <li>市の母子保健事業の受託の決定</li> </ul>

プロセスは二方向ではなく、線型を  
 描くように前進と後戻りを繰り返す

研究結果：拠点施設がSC形成に果たす役割とは



## 手引書の作成

### ▶ 産前産後ケアセンター設立に関する問題点

計画の進行が遅くなる。  
(ハード設立に向けての問題点の多さ、意見の衝突。)

#### ■ 介入した箇所の事例

##### 神奈川県秦野市の事例

自治体が大きな施設建設を進めようとしているのに対して、助産師団体の方では、より小規模な施設での運営を提唱。

##### 高知県の事例

多職種間での話し合いを多数行っているが、意見のまとまりに欠ける。

施設設置に関するあらたなる指針の提示

## 手引書の作成

### ▶ 拠点設置に関する新たな指針の提示

#### 既存の社会資源の有効活用

- 子育て支援センター
- 地域包括支援センター
- 母子支援センター
- 保健センター
- 隣接した空き・園舎

計画の  
迅速化



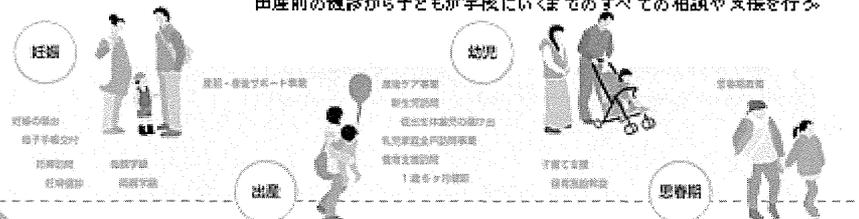
#### 新たに施設を建設

- 自治体主導での建設
- 民間委託による建設

### ▶ 新しい母子保健政策の形

#### ネウボラ

フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する支援制度。  
福祉先進国のフィンランドでは各地にネウボラという施設があり、  
出産前の機序から子どもが学校に行くまでのすべての相談や支援を行う。



## 手引書の作成

▶ 国内でのネウボラの先行事例

三重県名張市・千葉県浦安市・埼玉県わごう市

### 妊娠出産包括支援事業（ソーシャルキャピタルを重視した事業展開）

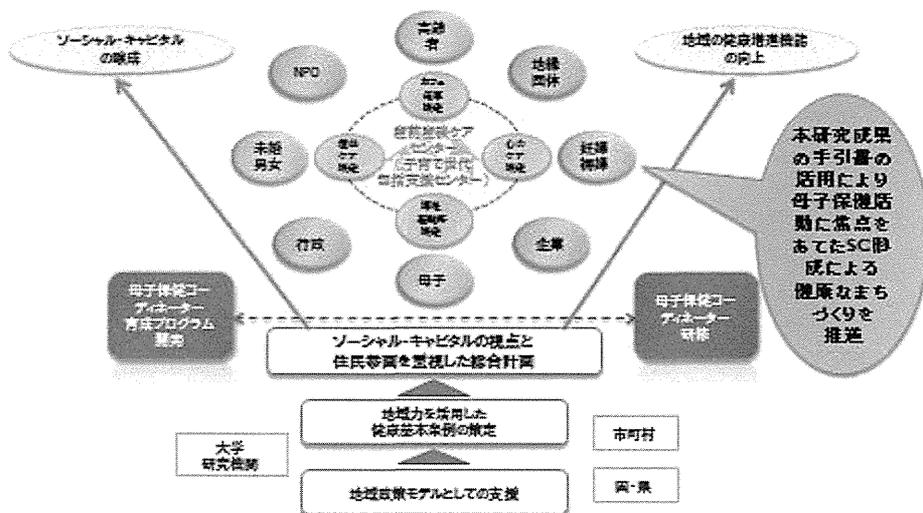
- 妊娠届出時に保健師や助産師（子育て支援マネージャー）が「子育てケアプラン」を作成  
妊婦ひとりひとりの状況に応じ、子育て支援や相談窓口を周知し、必要な支援につなげる。  
その後は出産前後2か月、1歳の頃にプランの見直しを行っていく。
- 母子保健コーディネーターの設置  
市内にそれぞれのエリアマネージャーの保健師が母子保健コーディネーターを兼ねるよう検討・調整。

平成28年度 母子保健コーディネーター研修 時刻表

平成28年度研修（お）から  
平成28年度研修（あ）まで

研修日	研修時間	午前		午後	
		10:00	10:30~12:00	13:00	13:00~15:30
研修1日	10:00	開講式	10:30~11:30 少子化子育て支援の現状と動向 調査発表会		アセスメント実施方法/包括的・独自の支援の必要性を把握の技能
研修2日	10:00	地域における社会資源について		← 演習(アセスメント、課題抽出) →	
研修3日	10:00	子育て支援サービスと地域資源の活用、関係機関との連携について		← 演習(課題ケアシステム作成) →	
研修4日	10:00			16:30研修閉会式	

## 本研究からの提言



参考資料

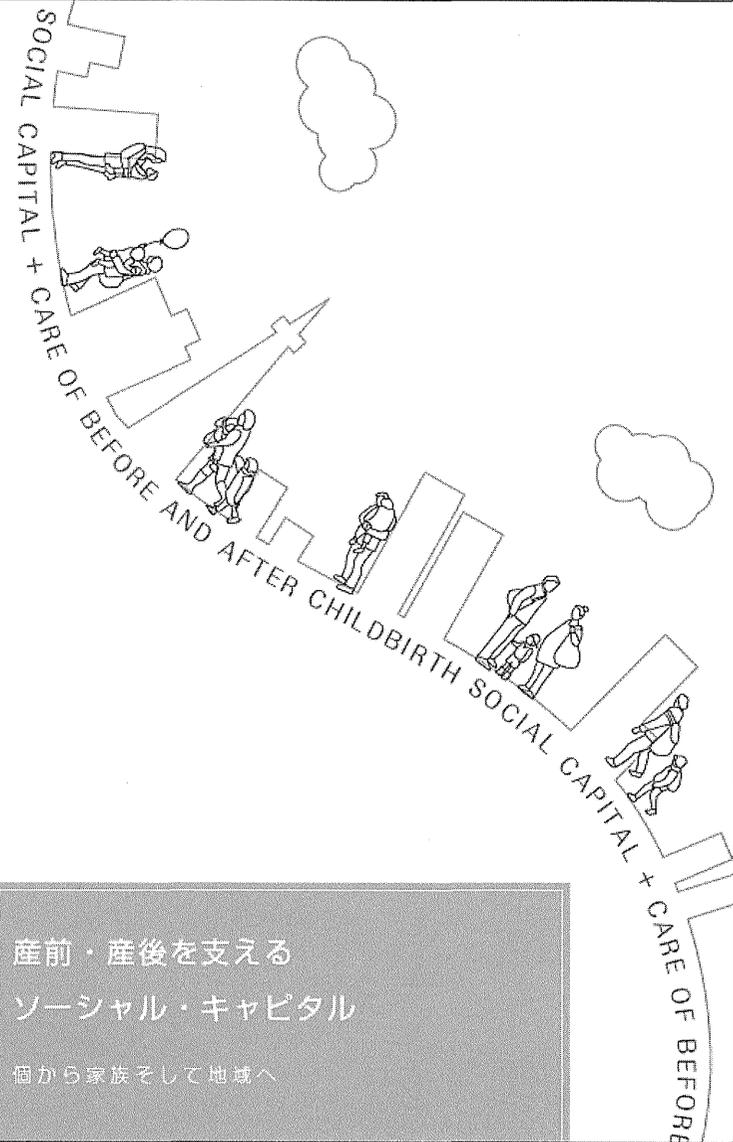
【手引書】産前・産後を支えるソーシャル・キャピタル  
～個から家族そして地域へ



Social Capital

+

Care of before and after Childbirth



産前・産後を支える  
 ソーシャル・キャピタル  
 個から家族そして地域へ

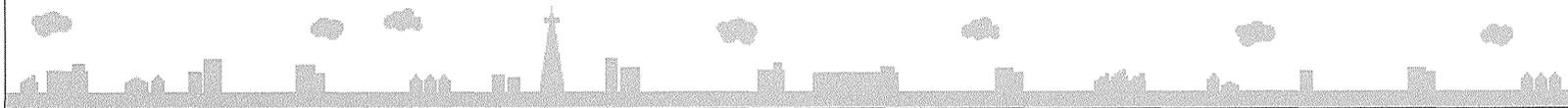
H26年度 厚生労働科学研究補助金【政策科学推進研究事業】  
 「健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を適用した介入実践と評価に関する研究」

## 研究協力者一覧

研究者名	所属
<b>【主任研究者】</b>	
福島 富士子	東邦大学 看護学部
<b>【分担研究者】</b>	
尾島 俊之	浜松医科大学 健康社会医学講座
信友 浩一	信友ムラ事務所
平野 かよ子	長崎県立大学
川島(堤玉)知子	あんずクリニック
齋藤 益子	帝京科学大学
待嶋 英光	NPO法人こども・みらい・わこう
<b>【研究協力者】</b>	
福永 一郎	高知県 健康政策部健康対策課
堀岡 伸彦	山梨県 福祉保健部健康増進課
栗内 京一	和光市 保健福祉部
上田 紀子	名張市 健康福祉課健康支援室
並木 美沙子	清安市 健康福祉部健康増進課
三井 ひろみ	北杜市 市民部健康増進課
石川 真菜子	豊野市 福祉部高齢介護課
市川 香織	文京大学 看護学部
榊田 明子	NPO法人 子育て・ニッポン
松田 妙子	せたがや子育てネット
松永 佳子	東邦大学 看護学部
松澤 寿美	東葉サライ
望月 弘子	医療法人協本会
新藤 京子	山梨県立大学 人間福祉学部
宗 祥子	松が丘産院
大澤 絵里	国立保健医療科学院 国際協力研究部
渡辺 文子	東葉サライ
林 友紗	東邦大学医学部博士課程
伊東 優子	わこう助産院
水澤 幸枝	わこう産前・産後ケアセンター
田嶋 幸代	フリーライター
渡辺 雛子	東邦大学

## もくじ

1. はじめに	1
2. ソーシャル・キャピタルとは？	3
3. 母子保健の拠点が ソーシャル・キャピタルの醸成を担う理由	5
4. 三重県名張市の事例	9
5. 埼玉県和光市の事例	15
6. 子ども子育て支援新制度について	19
7. まとめ	21
8. さいごに	23



# 1

## はじめに



### 1. 産前・産後を支えるソーシャル・キャピタル

この手引書は全国の市町村に向けて、「ソーシャル・キャピタルってなに？」というところから、「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」について、また「産後ケア」についても解りやすく、事例を交え紹介していきたいと思います。

個から家族そして地域へ。健康なまちづくりの実現にむけ、地域の母子保健の課題のひとつである産前産後ケアに着目し、地域での産み育てに関わるソーシャル・キャピタルの醸成の促進に、この手引書が少しでも全国の市町村のお役に立てればと思います。



## 2

ソーシャル・キャピタル  
とは？

ソーシャル・キャピタルとは簡単にいえば、

- ・人間関係、組織間の関係のとりやすさ作りやすさ
- ・社会全体の人間関係の豊かさ

の事を言います。

ソーシャル・キャピタルが貧しい



人との関係があまり豊かではない

ソーシャル・キャピタルが豊か



人との関係が豊か

地域のソーシャル・キャピタルが豊かであると、

- ・子どもの教育成果の向上
- ・近隣の治安の向上
- ・地域経済の発展
- ・地域住民の健康状態の向上
- ・政治的コミットメントの拡大

というメリットが有ると言われています。

## ① ソーシャル・キャピタルの概念

ソーシャル・キャピタルとは人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」と言った社会組織の特徴。(アメリカの政治学者、ロバート・パットナムの定義)。また、ハニファン (Hanifan: 1916) によると、ソーシャル・キャピタルは比喩的な言葉であり、不動産・資産・金銭などには関係なく、人々の日常生活に欠かせず感知されるもの、すなわち、個人ないし家族から成る社会的な集団の構成員相互の善意、友情、共感、社文などのことである。と言われている。

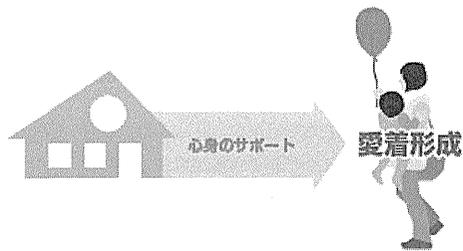
# 3

## 母子保健の拠点が ソーシャル・キャピタルの 醸成を担う理由



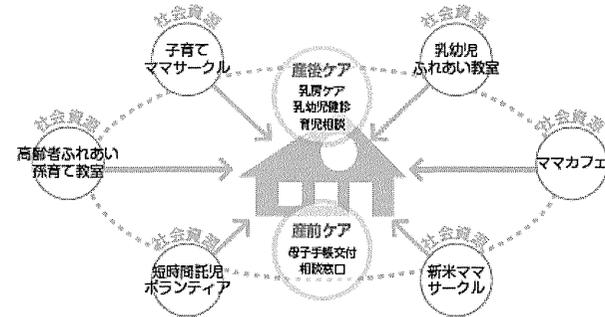
### 1. 愛着形成

人間関係の始まりである母子の愛着形成を健全に育むには、産前から産後にかけて心身ともにサポートをすることが必要です。それによって、子どもの他者に対する安心感、安全感をもつことが出来、ソーシャル・キャピタル醸成の基礎である、「他者への信頼」を持てるきっかけとなると考えられます。



### 2. 産前・産後ケア

産後の大変な時期に「産前・産後ケア施設」などにおいて、母親に寄り添い、いつでも相談できる場（繋がる場）となることで、母親の育児に対する不安を軽減させ、虐待防止にもつながります。産後の母親がもっとも不安を感じる時期は退院直後から3か月ごろまで、この時期の支援がとても重要になります。



### 3. 地域への架け橋

「産前・産後ケア施設」などの拠点を、地域の社会資源にスペースを提供することで、母子が地域社会に参加できるきっかけを与えることが出来、ソーシャル・キャピタル醸成につながると考えられます。

「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」は個々の母親を医療モデルで支援する狭義のケアではなく、地域との関係性を再構築し、ソーシャル・キャピタルを醸成する生活モデルとしての新たな概念と言えます。

### 4. 「日本版ネウボラ」という形

最近、「ネウボラ」という言葉を耳にする機会が増えました。これはフィンランドの妊娠・出産・子育てをワンストップで支援する制度のことです。わが国においても「日本版ネウボラ」を目指そうとする動きがあります。ここでは、日本版ネウボラの基本的構想を紹介、次の項からは現在日本で行われているネウボラの2つの自治体の事例を紹介していきます。

#### ネウボラの基本概要

1. 地域における包括的支援体制の構築
2. 相談支援サービス（利用者支援事業）
3. 「包括的・継続的な支援プラン」（妊娠・出産・子育て）
4. 産前・産後支援サービス

#### 「日本型ネウボラ」の特徴

##### フィンランドのネウボラ

- ▶ 母親の心身のケア
- ▶ 継続した切れ目ない母子保健政策



##### ソーシャル・キャピタル醸成の概念

- ▶ 医療と地域への架け橋（産後ケア事業）
- ▶ ケアを受けた母が次の担い手となる

#### 「日本版」ネウボラ→産後ケアの強化

##### 母子保健の拠点



ソーシャル・キャピタル醸成に向けた母子保健政策の考え方を持つ助産師



### ① ネウボラとは？

フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する支援制度。福祉先進国のフィンランドでは各地にネウボラという施設があり出産前の健診から子どもが学校に行くまでのすべての相談や支援をしています。日本でも最近、このシステムに着目し、内閣府によるモデル事業が開始されはじまりました。

